

例会報告：2015年9月29日（曇り） 第1905回 通常例会

◆ 会員誕生日

木村 啓滋さん（10月1日）
大川 裕さん（10月1日）



◆ 奥様誕生日

大谷 明子さん（10月2日）

◆ ニコニコ箱

櫻井 康二 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
9月29日分	46,355	269,855	1,300,000

*卓話者

川田 俊介様（有限会社川田製作所 副社長）…クラブからの御礼をそのままニコニコへ。

*会員誕生日

木村 啓滋さん…誕生日祝いいただきありがとうございます。私も10月1日で満60才になります。第2の人生をしっかりと充実したいと思えます。

*結婚記念日

石崎 孝さん…結婚記念日のお祝いありがとうございます。気が付いたら40年になりました。

*その他

歴代会長会…歴代会長会議の残金を少々。

鈴木 友徳さん…ゴルフで臨時収入がありましたので。

清 康夫さん…石崎ガバナー補佐、昨日は小田原RCガバナー訪問には御苦労様でした。息子も初めての経験で良い勉強になったとのこと。

菊地 義雄さん…①弊社の社長が工業博士になりましたので、沖縄に研究所を開設しました。第2の工業博士を目指しもう一名がガンバッテいます。②秋の味覚、栗拾いに夢中になり着替えの時間がなくなりました。③ゴルフで臨時収入がありましたので、全額ニコニコします。

中村 維孝さん…①長旅からようやく帰ってきました。ご迷惑おかけしました。②誕生日のお祝いありがとうございます。61才になってしまいました。③一昨年のゴルフコンペ、3位入賞でした。久しぶりでしたが、皆様のおかげです。

小嶋 章司さん…川田俊介さんようこそ。お父さん、お母さんには大変お世話に成っています。春光保育園からのおつき合いです。

金山 慶昭さん…川田様、本日の卓話楽しみにしています。

須藤 公司さん…①先日のゴルフコンペありがとうございました。②小田原市の入札工事で今年度初めて落札し、抽選にも当たりましたので、少々。

阿久津 馨さん…ゴルフ同好会のコンペが楽しかったので。

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2015年10月-

- ▶7日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：未定」
- ▶8日(木) 小田原中 移動例会 12:15集合
「職業奉仕&親睦・家族委員会合同例会」
- ▶9日(金) 湯河原 移動例会（社会奉仕）
「下草刈り」
- ▶9日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
「卓話担当：クラブ管理運営」
- ▶12日(月) 小田原 休会
- ▶13日(火) 箱根
- ▶14日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：かものはしプロジェクト 草薙直基様/
2014年度活動報告」
- ▶15日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話：米山奨学生による卓話」
- ▶16日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「卓話：会員による卓話」
- ▶16日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
「卓話担当：会計」
- ▶19日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「クラブフォーラム：米山記念奨学委員会」
- ▶20日(火) 箱根
- ▶21日(水) 小田原北 家族親睦会
- ▶22日(木) 小田原中 休会
- ▶23日(金) 湯河原 休会
- ▶23日(金) 足柄 休会
- ▶26日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話：新会員自己紹介・職業紹介」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監修：柳井 渉
編集長：小林 和彦
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：大川 久弥・杉本 博愛

会員数：46名

国際ロータリー第2780地区

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2015-2016
WEEKLY BULLETIN

小田原城北ロータリー・クラブ

世界へのプレゼントになろう

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

【R.I. 会長】
K. R. ラビンドラン
【R.I. 2780地区ガバナー】
田中 賢三
【第9グループガバナー補佐】
石崎 孝

【会長】木村 頼弘
【副会長】久保田 知子
【幹事】柳井 渉
【副幹事】須藤 公司
【会場監督】西 寛

本日の例会：通常例会（第1906回）

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年10月6日 12:30～13:30
司会：須藤 公司 副幹事

12:30	開会点鐘：木村 頼弘 会長 国歌斉唱 ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱
13:00	担当：菊地会員 卓話：パストガバナー 山地 裕昭 様 「ロータリーとはなにかという基本的な考え方について」
13:30	閉会点鐘：木村 頼弘 会長

■雑誌広報10月号報告

雑誌広報委員会 杉崎勝成 委員

あと半年余りに迫った40周年、先週実行委員会を開催し各部長より素晴らしい具体案が出てまいりましたのでご期待をしていただきたいと思います。

さて、皆さんは「ロータリーの友」を読む場合どちら側から読み始めますか？私は日頃の癖なのか横書きのページから捲っていきます。まあそれはどちらでも良いことですが・・・、私が生まれる2ヶ月前、1952年7月に日本のロータリーが2地区に分割されその両地区の架け橋として「ロータリーの友」が誕生しました。1953年1月の創刊時からしばらく横書きが続き、その後俳壇・歌壇など縦書きでないといふ具合の悪いものは巻末に掲載するようになりました。その後縦書きの記事も増え1972年1月号からは現在のように珍しい両方が表紙の雑誌となりました。1980年7月号からは正式にRIの公式「地域雑誌」となり我々はそれを購読し義務を果たしてはいますが、実は「地域雑誌」としての規定があり一つにRIの機関誌「The Rotarian」から指定された記事を転載しなくてはなりません。例えば7月号の表紙はRI会長の写真、8月号には「ロータリーの基本知識」等がそれにあたります。10月号で言えば、3ページの「RI会長メッセージ」、25ページからの「ソウルの特集」記事、48ページ「RIロータリー財団管理委員長の思い」です。そのような記事には必ず上部に「RI指定記事」とロゴマークが記載されています。

したがって、大きく分けると横書きには特別月間を含むRI関連記事が多く、縦書きには全国各地のロータリー活動や会員の情報が掲載されています。全世界のロータリアンと情報を共有したければ横書きから、全国のロータリアンの様子が知りたければ縦書きからと期待をもって読まれることをお勧めします。

今年度からRI理事会が指定したロータリーの特別月間が新設されたのはご存知かと思いますが、関連記事が横書き44ページに記載されています。これを読むと4月にあった「ロータリーの友月間」がなくなっています。しかし日本独自の特別月間として「ロータリーの友月間」は先月の9月に、「米山月間」は変わらず10月に設定されています。詳しくは石崎ガバナー補佐訪問の10月13日（例会）にご説明があると思います。4つの「ロータリーの特別週間」もありますがまた機会がありましたらご説明をさせていただきます。

では「ロータリーの友」を読んで視野を広めてください。

RAC 会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

例会報告：2015年9月29日（晴れ） 第1905回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年9月29日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶

「挨拶」について



木村 頼弘 会長

今日は「挨拶」についてお話しします。家の近所を歩いていると、たまに小学生の方から「こんにちは」「おはようございます」と声を掛けてくれます。散歩に出かけた時も、まったく知らない人が「こんにちは」と声を掛けてくれます。知らない人に挨拶するという事は、簡単そうに見えて誰でも出来る事ではありません。結構、勇気がいる事だと思います。今は、地域住民の人間関係が非常に奇薄になっている時代です。そんな時代だからこそ、私は知らない人にも挨拶できる人を見習わなくてはいけないと感じています。

私は子供の頃、また小学校でも「人に会ったら挨拶をしましょう」と教わってきました。しかし大人になると、なぜか挨拶がおろそかになってきます。忙しいとか、面倒臭いとか、恥ずかしいとか、中には挨拶したい奴が勝手に挨拶すればいい。

適当に挨拶しておけばいい、たかが挨拶、別に気にする事はない、と思う様になってきます。

挨拶は人間性の感覚の表れです。自分の人格を高めると同時に、人間関係の潤滑油になる大切なものです。あいつは挨拶しないから、俺も挨拶をしないのではなく、最も大切な事は相手の出方に関係なく自分自身の礼儀を守る事、これが一番大切な事です。

「こんにちは」の言葉の意味は（今日のご機嫌いかがですか）と相手を気づかう想いが込められています。挨拶をすれば笑顔になるし気持ちもいいし、そこから会話も始まると思います。挨拶はしても、されても気持ちが良いもんです。ロータリーの名言の一つに「人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので人の価値が判断される」という有名な言葉があります。

人に与えるものとは、何でしょう。何もお金に品物に限った事ではありません。知識や勇気、感動や優しさ、励みや癒し、沢山あります。挨拶することにより、私は相手に元気と笑顔を与える事が出来ると思っています。

たかが挨拶ですが、その価値は小さいかも知れませんが、人生において大きなプラスになると考えています。

ここに居る全員はみんな顔を知っています。挨拶するのに勇気は必要ありません。

みんな仲間です、もっと気軽に挨拶したいと思っています。

❖ 幹事報告



柳井 渉 幹事

- 1) 地区より「関東・東北豪雨」災害の義捐金の協力依頼が来ております。
- 2) 9月でクールビズが終了します。次週よりジャケットとネクタイ着用をお願いします。
- 3) 次週11時より談話室にて理事会が開催されます。理事の方はお忘れなようご参加下さい。

❖ 出席報告

守屋 善男 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
9月29日	46(43)	36	1	86.05%
9月15日	46(43)	37	1	88.37%
9月8日	46(43)	38	2	93.02%

【欠席者】7名

大谷 宏、西 寛、辻村 彰秀、一寸木 芳行、志澤 昌彦、杉本 博愛、内山 修一

【今回MU】1名

辻村 彰秀 (9/19 補助金説明会)

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 委員会報告

社会奉仕委員会・阿久津委員長

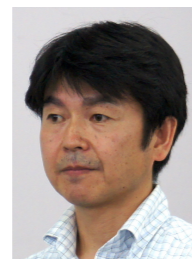
10/13（火）18：30～、江戸っ子で第1回委員会を開催します。会費は5千円、議題は「事業について」です。昨年の事業は好評でしたので、それに基づいて皆さんと協議していきたいと思っています。出席できない方は事務局へ10/6までにお知らせください。

40周年実行委員会・大川副委員長

本日18時より江戸っ子で40周年第4回準備委員会を開催いたします。対象の方は遅れないようご出席をお願いいたします。終了後は懇親会となります。

❖ 卓話

「3Dプリンターから始まる町工場の未来」



**川田製作所 副社長
川田 俊介 様**

メーカーズブームという言葉をご存じですか？3年くらい前に「MAKERS」という本が話題になりました。「誰もがMAKERになれる時代。今までは大企業がモノを設計して販売するのが基本だったけれど、これ

からは個人でもモノ作り=MAKERになれる」とあり、ここからメーカーズブーム、メーカーズムーブメントと呼ばれています。別の呼び方

では「モノ作りの民主化」。企業が取り上げていたモノ作りがもう一度個人に戻ってくるということです。



コンパクトになった3Dプリンターを筆頭に、最新の機械を通してモノ作りの舞台が机の上で可能になってきました。3Dプリントは昔からありますが、最近は機械が安くなり量販店では数万円から買えます。業務用ですと数千万のものもありますし、素材も安い樹脂から高いものは金属製も作れます。今日持ってきたプリンターは2012年に購入した2200ドル（20万円くらい）のもので、今は円安でもう少し高くなりますが、普通のPCプリンターでも20万円する時代もありましたので、それと同じくらいで3Dプリンターが買えるという訳です。

最近セットで出てきているのが3Dスキャナーです。3Dプリンターは印刷（造形）は簡単でもデータを設計するのが難しく、3Dスキャナーはそこを補う技術として写真を撮るだけで3Dデータができる装置です。これも数万から数千円くらいまであります。



実際どんなものを作れるのか？例えば人間をスキャンしてその女性の顔型チョコレートを作れます。バレンタインのプレゼント用だそうです。自分の形に作ったグミを自分で食べている写真もあります。

スキャナーと組み合わせると色々な楽しみ方ができるのです。

身近なメーカーズとして小田原にはビーサイズの八木さんという有名な方がいらっしゃいます。数年前に創業された基本的に1人の会社で、彼は経営者・デザイナー・エンジニアを兼ねており「ひとりメーカー」と呼ばれて講演活動を続けています。

メーカーズのもう1つの流れとしては「ハンドクラフト」があります。上府中公園で月1回行われるハンドクラフト市は3年前に始まり、現在は毎回100店舗くらいの出店があります。ハンドメイド市場はインターネットでも広がりを見せています。ハンドメイド品を写真付きで販売し、見た人がそこでショッピングする、そういった市場が前年比3.5倍の勢いで成長しているそうです。メーカーズブームは、大量生産のものに興味を失った人たちに新しい豊かさや喜びを与えようとする時代背景もあると思います。

ここからは私の会社の取り組みをご紹介します。昭和44年創業、金属プレス加工の会社で金属部品の大量生産をしています。私は5年前に父の跡取りとして入社しましたが、その時の心境は「日本の町工場に未来はあるのか？」でした。メインのお得意先が海外に工場を移転すると売り上げはドンと落ちてしまいます。上下が激しく、ジェットコースターに乗っているような状態でした。そこで会社として3つの取り組みを考えました。

1つは国内の部品メーカーとして大企業が設計したものを大量生産するしっかりした技術を持つこと。

2つめは地域の一企業として何が出来るか。3つめはアジアの一企業として何が出来るか。その3つです。その中の「地域の一企業として何が出来るか」。まずは良い雇用の場を作ること。社員全員に良い雇用の場を作り人数を増やしていくことが大切です。

その上で町工場として地域に貢献できることを考えています。2012年11月に立ち上げたのが「新ものづくり研究室」です。最初にやったのは展示会への出店で、横浜のテクニカルショーへ3Dプリントを実際を持って行って見せました。すると多くの方が「どうやって作るの？」「スピードは？」「精度は？」などと話しかけてくれ、それがオープン工房を始める流れに繋がりました。オープン工房は3Dプリンターを使ってみたい人が自由に使える場所です。興味のある人がうちの工場へ来て使い方を覚え、作りたいものを作って帰っていきます。また、「金属材料を手配したい」「学生服のボタンを作りたい」「人形の金属部品を作りたい」等、今までなかった注文をいただくようになりました。新しいニーズが地域から生まれてきたのです。

そこで第2ステップとして始めたのが「出張町工場」という活動です。地域と繋がる町工場をコンセプトに昨年4月スタートしました。まず町へ出てみよう、ハンドクラフト市で3Dプリンターを持って動かして見せたり、作ったプロダクトを販売したりしています。動かしていると子供たちが集まってきて、質問をしたり興味を持ってくれたようでした。そこから次の展開としてワークショップを始めます。小田原箱根まちなか博覧会でワークショップを企画して3Dプリンターを使ってもらいました。子供たちが絵を描き、その絵を3Dプリントしてキーホルダーを作りプレゼントする、という内容です。今年は秦野にも呼んでいただきました。小田原ハルネの壁ショップにも作品を並べて販売



しています。また、大阪で空手の全国大会があった時にメダルを町工場連合で作ることになりました。今までにないメダルを作ろうというプロジェクトで、刺繍機を使ってその場で選手の刺繍を入れて贈りました。こういった新しい出会いも生まれています。最近、古い昔の工場をシェア工房に再生しました。今は様々な業種の4名の方が活用しています。そしてこの秋新しく始めようとしているのが、町工場の出張カーを作るプロジェクトです。キャンピングカーを改造して中に3Dプリンターなどを積めるようにして、車ごと出張してしまおうというのが狙いです。

やってきて一番良かったと思うのは異業種の方との繋がりが生まれた点です。私自身も今までで会うことのなかった人たちと、職種や肩書と関係なく繋がれるきっかけになりました。「ものづくり」から「ことづくり」へ。経験や思い出を加えて、より想いの強いものを作って行く。町工場の未来はポスト大量生産の時代です。欲しいものが無くなっていった時、町工場ができることはものづくりを通して地域と繋がり新たな役割を得ることです。そういった可能性を感じながらこれからも活動を続けていきたいと思っています。